

## 小学校出前授業「楽しいお天気講座」の活動状況と成果

関西支部（関西気象予報士会）（発表者：藤井 健）

### 1. はじめに

1999年11月に結成された関西気象予報士会（以下「当会」と略す）では、活動の一つに「一般の人の気象理解に役立つ活動」があり、その一環として、会員が講師として小学校等に出向き、「楽しいお天気講座」を実施している。この講座は、2000年9月から始め、8年の年月が経過した。

「楽しいお天気講座」については、日本気象学会の全国大会や関西支部年會において報告している（諫山・富田、2003；藤井ほか、2005、2006、2008）。そして、日本気象学会から、この活動に対して奨励賞が授与されている（諫山・寺野、2006）。また、2006年には、（財）日本気象協会が募集した懸賞論文に応募し、入選した（寺野ほか、2006）。

近年は、ほぼ恒常的に学校から依頼があり、毎年、依頼を受けている小学校も多く、活動は軌道に乗っている。

### 2. 授業の内容

当会では、「楽しいお天気講座」として、次のようなテーマを設け、テーマごとにプレゼン用のPowerPoint教材と実験・実習を用意し、学校側の希望により実施している。

- 天気予報を学ぼう（90分版）
- 天気予報を学ぼう（45分版）
- 台風を学ぼう（45分版）
- 地球温暖化を学ぼう（45分版）
- 雪を学ぼう（45分版）

この中で、正規の授業時間の2時間を使った「天気予報を学ぼう（90分版）」の概要は、次のとおりである。最初に、気象観測と天気予報の方法について概要を説明し、その後、班ごとに予報について検討させ、予報文を作成させ、発表させるというものである。また、その発表に対しては講師の気象予報士が講評を与えたり、質問に答えたりしている。この授業は、単に天気予報について学習するだけでなく、グループで作業し、アナウンサーやキャスター（気象予報士）となって他の人の前で発表する経験が含まれており、大きな教育効果を挙げている。

また、「楽しいお天気講座」は、関西気象予報士会のホームページ<http://www.yoho.jp/shibu/kansai/index.htm>の中でも紹介しており、これは学校への募集の窓口としての役割を果たしている。

なお、当会会員の気象予報士が主催し、子どもたちに呼びかけて、イベントとして実施しており、2008年度は6回実施した。これについては、今回省略することにする。

### 3. 実施状況

お天気講座を開始した当初は、大阪府教育委員会が主催であり、2002年度に当会が主催して実施してきた。そこで、2002年度以降における「楽しいお天気講座」の年度別実施クラス数を示すと図1のようになる。これによると、各年度（4月～翌年3月）に実施したクラス数は、2004年度に大幅に増加し、その後、年々増加の傾向があり、最近2年間では50クラスを超えている。

次に、これらの出前授業を受講した児童数を図2に示す。これも、年々、増加傾向にあり、最近2年間は、1年間に1700～1800人の児童がお天気講座の出前授業を受けている。また、2000年開講以来、受講した子どもたちの数は、イベントを合わせると、延べ数で1万人に達している。

一方、実施クラス数を月別に分けると、9～11月の3か月間が圧倒的に多く、2008年度には年間53クラスのうち40クラスで実施している。これは、小学校理科で、天気について学習するのが5年生2学期に多いことと関係が深い。

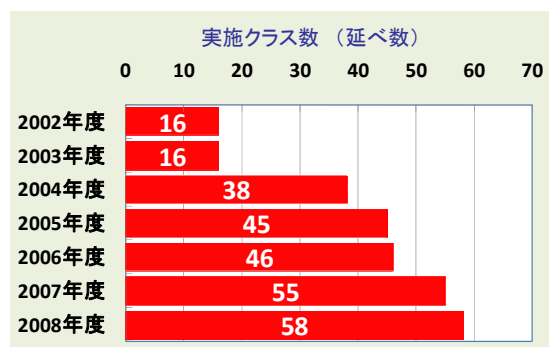


図1 お天気講座の出前授業を実施した年度別クラス数 (延べ数)、2008年度は2009年1月15日現在

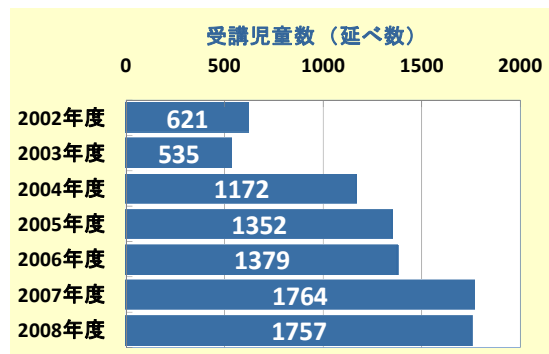


図2 お天気講座の出前授業を受講した年度別児童数 (延べ数)、2008年度は2009年1月15日現在

### 4. 出前授業の成果

「楽しいお天気講座」終了後、担任の教諭に依頼して、児童に対してアンケート調査を実施している。その項目は、次のとおりである。

【設問1】 今回の授業は、どうでしたか？（選択方式）

- ① とても楽しかった。
- ② 少し楽しかった。
- ③ あまり楽しくなかった。
- ④ 全然楽しくなかった。

【設問2】 内容は、どうですか？（選択方式）

- ① とてもわかりやすかった。

- ② すこしわかりやすかった。
- ③ すこしわかりにくかった。
- ④ 全然わからなかった。

【設問 3】 自分の役にたったことやもっとこんなことがやりたかったことなどがあれば、自由に書いてください。  
(記述方式)

選択方式回答の設問 1 と設問 2 について、アンケート結果がほとんど残っている 2005 年度以降について、年度別集計結果を図 3 と図 4 に示す。これによると、設問 1 で「とても楽しかった」と回答した児童の比率は、最近 2 年間は 80% 程度にまで増加している。

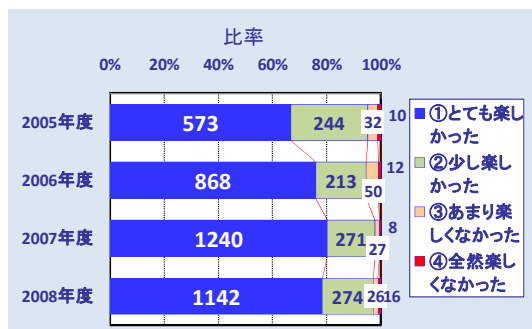


図 3 お天気講座の「設問 1 今回の授業はどうでしたか？」に対する回答の分布 (グラフ中の数値は回答者数), 2008 年度は 2009 年 1 月 10 日現在

このように児童たちの評価が年々高くなる傾向があるのは、講師の指導技術の向上やコンテンツの改良によるものと考えられる。前者については、講師が経験を積み重ねていることに加えて、学期後の 8～9 月と 12 月に反省会を開き、講師の間で情報交換をしていることが大きな役割を果たしている。後者については、新学年に備えて 1～3 月にコンテンツ見直し検討会を開いて、改良に努めたり、また、学年初めの 4 月に講師事前説明会を開いて、改良点を中心にコンテンツを説明したりしている。なお、今回は省略したが、当会会員の気象予報士は、地域の子どもたちに呼びかけて、イベントを開いている。そこでは、実験を多く取り入れたりして、子どもたちの反応を見ながら進めており、これも指導技術の向上に役割を果たしているものと考えられる。

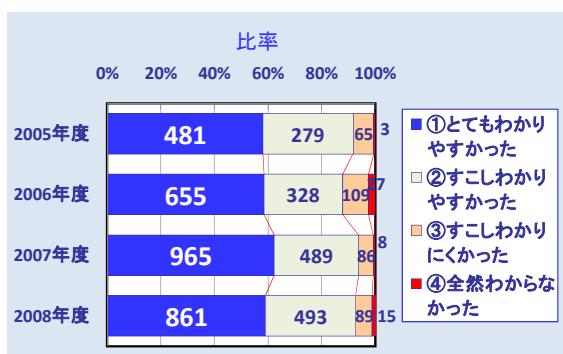


図 4 お天気講座の「設問 2 内容はどうでしたか？」に対する回答の分布 (グラフ中の数値は回答者数), 2008 年度は 2009 年 1 月 10 日現在

一方、設問 2 の内容については、「とてもわかりやすかった」と回答した児童は、60%前後で、4 年間あまり変化がない。さらに解りやすく説明する努力が必要であると思われる。

### 5. 今後の課題

講師を務めた会員からは、授業直後や反省会において、感想や反省点を報告してもらっている。これによると、今後、指導技術の更なる向上に向けて、次のような課題などが存在している。

- 児童の集中力は 15 分から 20 分くらいで切れるようである。授業時間中、いかに子供の興味を引きつけるかが大切である。
- 都市部に比べて、農村部では、農作業との関連などで気象への関心が高く、鋭い質問もある。また、その地域独特の天気特性もあり、講師は地元の人を 1 人くらい入れておいた方がよい。
- 上層に寒気が入り、不安定な天気の場合、地上天気図だけで説明するのは難しい。

以上、小学校への出前授業「楽しいお天気講座」は、ほぼ軌道に乗った活動を続けている。その中で、子どもたちに自然や気象に興味をもたせ、科学的な考え方を育成するという役割を果たしている。その一方で、当会会員にとっては、社会において気象予報士の資格や気象予報の専門家としての資質を活かす一つの機会となっている。

しかし、今後、出前授業を進めていくに当たって、運営面の上からは、次の課題が残されている。

- 学校から申込みがあって講座を実施するまでの間に、講師の手配や学校との打合せを行わなければならない、スケジュールが非常に密である。これは、担当幹事にとって、大きな負担となっている。
- 小学校から依頼は 9～11 月に集中する。
- 学校からの要請は平日であり、講師 (3 名) の確保が容易ではない。

### 謝 辞

「楽しいお天気講座」の実施に当たって、2004 年 1 月～2008 年 10 月の 4 年間にわたって助成を受けた日産科学振興財団に対して、厚く感謝の意を表したい。

### 参考文献

藤井 健ほか, 2005: 小中学校出前講座「楽しいお天気講座」を始めて 5 年。2005 年度日本気象学会関西支部年会  
 藤井 健ほか, 2006: 小学校出前授業「楽しいお天気講座」の最近の状況, 日本気象学会 2006 年度秋季大会  
 藤井 健ほか, 2008: 小学校出前授業「楽しいお天気講座」の最近 3 年間の活動, 2008 年度日本気象学会関西支部年会  
 諫山安彦・富田正夫, 2003: ボランティア活動, 小中学校向け出前授業「楽しいお天気講座」への取り組みの紹介, 日本気象学会 2003 年度春季大会  
 諫山安彦・寺野健治, 2006: 奨励賞を受賞して, 天気, 53, 61-63  
 寺野健治ほか, 2006: 出前授業『楽しいお天気講座』を通して子どもたちに伝えていきたい気象の恵み, 気象に関する懸賞論文入賞論文集, (財) 日本気象協会, 39-49